



薬剤部季刊誌

35号

2015年3月発行

くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 小林 真弓

編集担当者 高井 悠希

矢古宇 由佳

小島 強

第35回目のテーマは“漢方薬”についてです。

漢方とは？

漢方とは、中国から伝えられた医学をベースに、日本人の体質や風土に合わせて独自の発展を遂げたものです。そのため、中国に漢方というものは存在しません。



漢方薬は何からできているの？



漢方薬のほとんどは、2種類以上の「生薬」を組み合わせで作られています。

「生薬」とは、植物の茎や根、貝殻や鉱物など薬効成分をもった自然素材のことです。

漢方で用いられている生薬の中には、普段はシナモンとして知られている「桂皮(ケイヒ)」や、カキの殻である「牡蠣(ボレイ)」などもあります。

漢方薬は西洋薬と何が違うの？

西洋薬は有効成分が単一のため、熱や痛みをとったり血圧を下げたりなど、一つの症状や病気に対して強い効果があります。

漢方薬は、本来からだに備えている免疫能力などを体質改善をしながら回復させることを得意としています。よって、慢性疾患や生活習慣病、ストレスなどさまざまな要因が絡み合って生じる疾患に効果があります。



漢方には、患者さん一人ひとりの心と体の状態をあらわした「証(しょう)」というものがあり、これによって処方される薬が決められます。そのため西洋医学的な病名は異なっても、証が似ていれば同じ漢方薬が用いられることがありますし、反対に病名が同じでも、証が異なる場合は違う漢方薬が処方されることがあります。

漢方薬と西洋薬は併用しても大丈夫？

漢方薬と西洋薬の併用は、それぞれの得意分野を活かして治療を行えることから、医療現場でもよく行われています。ただし、風邪の治療薬である「小柴胡湯(しょうさいこう)」と C 型肝炎などの治療薬である「インターフェロン」の併用のように、組み合わせ方によっては副作用が起こることがあります。

お薬を併用する際は、必ず事前に医師や薬剤師に相談しましょう。

漢方薬の種類にはどんなものがあるの？

本来の漢方薬の剤形としては「湯剤」、「散剤」、「丸剤」、「軟膏」などの種類があります。「湯剤(とうざい)」とは、刻んだ生薬を煮出して成分を抽出するもので「煎じ薬」のことです。

現在医療用漢方処方製剤は 148 処方製剤あり、このうち 1 処方方は軟膏ですが、それ以外の 147 処方方はすべてエキス剤です。エキス剤とは、生薬を煎じた液からエキス成分を抽出したもので、煎じる手間がかからないうえ携帯に便利で、服用しやすく長期保存も可能という利点があります。

漢方薬にも副作用はあるの？

漢方薬も薬ですから、副作用はあります。服用中に起こる主な副作用として、食欲がなくなる、熱やじんましんが出る、むくみ、動悸、不眠、血圧が上がる…などがあります。

例えば「甘草(かんぞう)」という生薬は、摂り過ぎるとむくみや血圧の上昇といった副作用を起こしてしまうケースが見られます。甘草は漢方薬だけでなく、食品にも含まれることがあるので注意が必要です。



漢方薬はどうやって服用するの？

漢方薬は、食前または食間に飲むのが一般的です。空腹時のほうが有効成分の吸収がよく、食品との相互作用の心配も少なくなるためです。

生薬の中には、ジュースやお茶、牛乳などで飲むと、効きが悪くなったり、反対に効き目が強くなったりするものがあるので、なるべく白湯か水で飲むようにしましょう。また、体質や漢方薬の種類によっては、食後や水で飲むほうがよい薬もあります。

服用の際は、医師や薬剤師に服用方法を確認しましょう。

漢方薬はどこで購入できるの？

漢方薬は医師に処方してもらうほか、ドラッグストアなどでも市販の漢方薬を購入することができます。処方薬でも市販薬でも、同じ名前の漢方薬であれば配合されている生薬はほぼ同じです。

次回は、2015年6月発行予定です。